

## 執筆者一覧（掲載順）

田 島 奈 都 子	青梅市立美術館 学芸員
佐 々 木 長 生	日本常民文化研究所 客員研究員
石 山 幸 弘	日本児童文学学会 会員
石 井 和 帆	非文字資料研究センター 2017年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
小 椋 裕 樹	非文字資料研究センター 2017年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
華 雪 梅	非文字資料研究センター 2017年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
加 藤 里 織	非文字資料研究センター 2017年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
蔣 明 超	非文字資料研究センター 2017年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程

## ■編集後記

『非文字資料研究』18号は、8点の論考をお届けします。一般論文が2点と書評1点。田島奈都子氏は、欧米で第一次世界大戦期に製作されたポスターが、日本のデザインに積極的に取り込まれ活用されていたことを多くの図版を使い検証。具体的な分析の説得力だけでなく図版の面白さも印象に残ります。佐々木長生氏論文は『会津農書』に記載された麦の栽培技術と民俗を通して、「非文字資料」の「文字資料」化の一例が農書だとする仮説を提示します。石山幸弘氏は『国策紙芝居からみる日本の戦争』（「戦時下日本の大衆メディア研究」班、代表・安田常雄客員研究員の成果）を評しています。

奨励研究成果論文は5点。石井和帆氏は『風俗画報』の取材体制や描かれた風俗から資料的価値の検討。小椋裕樹氏は4地域の木地屋に着目し、技術自体が自由に流通したことを浮かび上がらせました。華雪梅氏は、佐賀市で徐福伝説が定着し語り継がれる背景などを聞き取りなどから明らかにしています。加藤里織氏はブラジル奄美移民のアイデンティティーの継承の問題を「UNDOKAI（運動会）」を事例に検討。蔣明超氏は中国山東省と福建省での「泰山石敢當」と「石敢當」の現地調査の報告を踏まえ分析しています。

各論考の対象はポスター、栽培技術、紙芝居、絵図、伝承、運動会、石造物と多岐に及んでいます。そして、その多様な対象から議論の射程は、国策やアイデンティティー、そして資料化の問題まで広範です。犀利に富む論考に、「非文字資料」を活用した研究の蓄積と号の積み重ねを実感します。みなさんの刺激的な論考を待っています。（後田多）

## ■表紙説明

本号の表紙と裏表紙の絵図は、神奈川県立常民文化研究所蔵の『耕稼春秋』に描かれた大麦蒔・小麦蒔（表紙）と大麦刈・小麦刈（裏表紙）の作業光景である。『耕稼春秋』は、宝永4年（1707）に加賀国石川郡御供田村（現金沢市）の十村（大庄屋）役・土屋又三郎によって著述された、金沢城下近くの農法を詳細に記述した農書である。

農書は、本来各地の農民たちが長年、その土地の風土に育まれてきた在来農法を著述したものである。先祖代々、技や伝承により語り継がれてきた農法、すなわち「非文字資料」が上層農民の「文字をもつ伝承者」によって、初めて「文字資料」化されたのが、農書である。

日本常民文化研究所蔵の『耕稼春秋』は、1～7巻までに加賀の在来農法を文字により記載し、8～10巻を絵図で記載したものである。わが国の農法が書物として誕生する歴史を、「非文字資料」から「文字資料」への変遷を物語っているのが『耕稼春秋』の存在であろう。（佐々木）

非文字資料研究 第18号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No.18

---

発行日	2019年9月30日
編集・発行	神奈川県立常民文化研究所 非文字資料研究センター 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 <a href="http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/">http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/</a>
印刷	共立速記印刷株式会社
雑誌コード	ISSN 2432-5481